

ぼうえい

vol. 63 (2025.夏号)



目次

- 1 防衛問題セミナーを開催
- 3 自衛隊行事・東海防衛支局の政策広報
- 5 明野駐屯地航空学校と市立伊勢総合病院との共同訓練
SH-60K哨戒ヘリコプター 量産最終号機完納式
- 6 「愛三岐のまちから」三重県伊勢市
- 7 採用関連のご案内／新着任者紹介



防衛省と地域社会との
協力を象徴するエンブレム

防衛問題セミナーを開催 (愛知県名古屋市 名古屋商工会議所)



**令和7年
3月18日(火)
15:00～17:20
(14:30開場)**

名古屋
商工会議所
大ホール
(名古屋市中区栄2-10-19
名古屋商工会議所ビル2階)
地下鉄伏見駅下車
5番出口より南へ徒歩5分

**令和6年度 東海防衛支局
防衛問題セミナー**

第1部 防衛生産・技術基盤の強化
講師：防衛装備庁 装備政策課長 伊藤 和己

第2部 災害時における自衛隊の活動
講師：陸上自衛隊 第10後方支援隊長 兼
春日井駐屯地司令 1等陸佐 荒川 ゆかり

参加無料 事前申込不要 当日会場へお越しください

※ご来場者の駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。
※都合により、講師及び講演テーマ等が変更となる場合がございます。
※席は十分確保(300席)しておりますが、満席になり次第の切りとさせていただきます。

主催：防衛省東海防衛支局 問い合わせ先：東海防衛支局 施設企画課
Tel: 052-952-8223 Email: tokaiseminar-ik@kinchu.rdb.mod.go.jp
共催：名古屋商工会議所

わが国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、令和4年12月、「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」（いわゆる防衛3文書）を閣議決定し、防衛力の抜本的強化を進めています。

そうした中、東海防衛支局は、防衛力の抜本的強化が必要な背景や具体的な内容について、広く国民の皆様にご理解をしていただけるよう、名古屋商工会議所と共催し、令和7年3月18日に防衛装備庁及び陸上自衛隊より講師を招き、名古屋商工会議所大ホール（名古屋市中区）において、防衛問題セミナーを開催いたしました。来場された約150名の方々は、熱心に聴講し、それぞれの講演後に活発な質疑応答が行われ、各テーマへの関心の高さがうかがえました。

当支局としては、皆様からいただいた意見も踏まえ、今後も多数の方の参加が得られるような防衛問題セミナーなどを企画・開催してまいります。



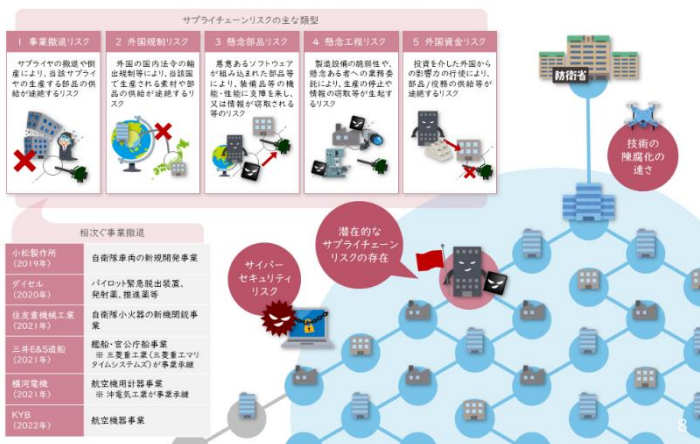
(上)【東海防衛支局 前田支局長】
(左)【名古屋商工会議所】（大ホール）

主催者挨拶

講演に先立ち、主催者である東海防衛支局の前田肇支局長は、挨拶の中で、東海防衛支局は、大きく二つの業務を実施しており、「防衛施設とその周辺地域との調和を図るために行う各種補助事業や補償業務」、「自衛隊が使用する装備品の製造等における監督・検査業務」、いずれの業務も地域の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、このようなセミナーの開催など政策広報も行っております。東海地方には防衛装備品を製造する企業が数多く存在し、能登半島の災害派遣に従事した部隊も所在しています。そうした地域特性を踏まえて、講演をしていただきます。防衛省の政策や活動には様々な分野があり、意外に皆様の身近なところでも行われていることを知っていただき、これまで以上に興味を持っていただく機会になれば幸いです。と述べるとともに、セミナーの趣旨に賛同・共催していただいた名古屋商工会議所はじめ、開催にご協力をいただいた方々への感謝を申し上げました。

第1部 防衛生産・技術基盤の強化

防衛産業が直面する様々な課題



【講演スライド】



【防衛装備庁装備政策課 伊藤課長】

第1部では、防衛装備庁装備政策部装備政策課の伊藤和己課長が「防衛生産・技術基盤の強化」と題して講演を行いました。

講演では、わが国の防衛産業の現状、防衛生産基盤の強化、今後の防衛産業政策の在り方について、防衛産業に関するサプライチェーン全体の強化、ウクライナ問題などの情勢変化に対応した最先端技術の取り入れ、国内の維持整備基盤強化による継戦能力の確保などを専門的な見地から詳しく説明しました。

その上で、わが国をとりまく安全保障環境上の課題には官側だけではなく、官民が足並みをそろえて課題に取り組むことが重要であると締めくくりました。

第2部 災害時における自衛隊の活動



【講演スライド】



【第10後方支援連隊長兼春日井駐屯地司令 荒川1佐】

第2部では、陸上自衛隊第10後方支援連隊長兼ねて春日井駐屯地司令の荒川ゆかり1等陸佐が「災害時の自衛隊の活動」と題して講演を行いました。

講演では、陸上自衛隊の部隊などの概要、能登半島における災害派遣活動、自衛隊の人的基盤の強化施策や女性活躍推進、駐屯地の活動について、長期にわたる災害派遣活動に関する現場の生の声、また困難な募集環境の中における人材確保のための様々な任用制度、人材育成のための教育、活躍推進施策などについて地元の部隊長兼駐屯地司令として詳しく説明しました。

その上で、この講演を縁に自衛隊に関心を持ち、隊員がやりがいをもって仕事をしていること、駐屯地でどんな生活をしているのかを知ってほしいと締めくくりました。

航空自衛隊の記念行事（小牧基地） 東海防衛支局の政策広報 陸上自衛隊第10師団音楽まつり

航空自衛隊では、令和7年3月2日に小牧基地において「航空祭（オープンベース）」（愛知県小牧市）を開催しました。同航空祭では、ブルーインパルスや小牧基地所属等航空機による展示飛行、各種航空機や装備品の展示などが行われ多くの方々が来場しました。



令和7年小牧基地航空祭（オープンベース）

★ 来場者数は約50,000人

（写真提供：小牧基地）



【ブルーインパルスによる展示飛行】



【UH-60JとK/C-130Hによる模擬空中給油展示飛行】



【装備品展示】（大型破壊機救難消防車）



【職種紹介】（機上電子整備）



【警備犬訓練展示】



【来場者で賑わう売店の様子】

東海防衛支局では、防衛政策や自衛隊の活動などについて広く国民の理解を得るため、様々な機会を捉えて政策広報を行っています。小牧基地航空祭においても広報ブースを設置し、令和6年度版防衛白書のパネル展示や本広報誌「ぼうえい」の配布などを行いました。

今後もこうした行事の機会に政策広報を行いますので、ご来場の際には是非お立ち寄りください。



【東海防衛支局広報ブース】



第10師団音楽まつり

★ 来場者数は約1,900人

陸上自衛隊第10師団では、令和7年3月1日に愛知県芸術劇場大ホールにおいて、「師団音楽まつり」を開催しました。陸上自衛隊守山駐屯地の第10音楽隊による演奏を中心に、自衛太鼓（豊川駐屯地「三河陣太鼓」、春日井駐屯地「十施桃陣太鼓」、金沢駐屯地「金沢自衛陣太鼓」）の演奏などもあり、多くの観客を魅了しました。

（写真提供：第10師団）



【自衛隊・警察・消防による息の合った合同演奏】



【豊川駐屯地よさこい部による演舞】



【自衛太鼓による迫力ある演奏（三河陣太鼓）】



【大盛況のなか会場と一体になったフィナーレ】

明野駐屯地航空学校と市立伊勢総合病院との共同訓練

陸上自衛隊明野駐屯地航空学校は、令和7年2月27日に市立伊勢総合病院との共同訓練を実施しました。本訓練は同駐屯地航空学校隷下の飛行教導隊と同病院のDMAT※（災害派遣医療チーム）が協力して、多用途ヘリコプターUH-2に負傷者を移動、病院への搬送（同病院屋上ヘリポートへ着陸）、病院スタッフへの引き継ぎまでの一連の動作を実施し、災害時における両者の相互対処能力の更なる向上を図りました。 ※ DMAT : Disaster Medical Assistance Team

（写真提供：明野駐屯地）



【負傷者をヘリコプターへ移動】
（明野駐屯地飛行場）



【負傷者を載せて市立伊勢総合病院屋上ヘリポートへ着陸】
（多用途ヘリコプターUH-2）

SH-60K哨戒ヘリコプター 量産最終号機 完納式

令和7年2月20日に愛知県西春日井郡豊山町に所在する三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場において、三菱重工業株式会社、海上自衛隊及び東海防衛支局等関係者が参加する中、SH-60K哨戒ヘリコプター量産最終号機の完納式が執り行われました。



【関係者一同によるテープカット】



【記念撮影】

SH-60K哨戒ヘリコプターは護衛艦に搭載し、艦艇と一体となって各種任務を遂行するヘリコプターです。平成9年に任務の高度化・多様化に合わせてSH-60J哨戒ヘリコプターをベースに開発が始まりました。そして平成14年に試作機が納入されたのに続き、平成17年から量産機の納入が開始され現在に至ります。

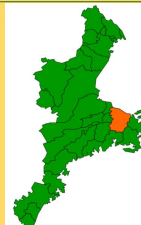
その間、東海防衛支局では当機種の納入に係る監督・検査を実施し、要求される品質の確保及び安全管理に留意して業務に取り組んでまいりました。

当機種の製造は今回が最終号機となりますが、これからも重要な装備品が高い品質で納入されるよう職務にまい進してまいります。



（出典：海上自衛隊ホームページ）

主要要目	
速力	（最大）139kt
機体	全幅16.4m、全長19.8m、全高5.4m
全備重量	10,872kg
発動機	T700-IHI-401C2、1,800馬力×2基
乗員	4名



「古(いにしえ)から未来へつなぐ伊勢市の伝統と発展」



すずき けんいち

鈴木 健一 伊勢市長

伊勢市は、「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれる神宮がご鎮座する観光都市であり、豊かな自然に恵まれ、伝統と文化を継承し続けてきた歴史のあるまちです。また、神宮とともに歴史を刻んできた町並みや民俗行事、風習なども息づいています。古くから観光客をおもてなしする宿泊や飲食サービスをはじめ、さまざまな業種が観光と関連し栄えてきました。

20年に一度繰り返される神宮式年遷宮は、古(いにしえ)と現在と未来がつながる神宮最大のお祭りです。そこには、自然や生命が循環するように、過去のものが現在に生き、未来にわたり常に若く瑞々しい姿を保ち続ける「常若(とこわか)」という思想があり、その精神を子孫へ伝えたいと願う人々の思いと重なっています。そして、本市は、神宮式年遷宮が執り行われる20年の周期で道路等の都市機能が整えられ、そのたびに賑わいを生み出してきました。

第62回神宮式年遷宮が斎行された2013年の神宮参拝者数は、記録が残る1895年以降最高の約1,420万人を記録しました。

第63回神宮式年遷宮が執り行われる2033年(令和15年)に向け、2025年(令和7年)から様々なお祭りと行事が行われます。それと同時に、令和7年は伊勢市制施行20周年を迎えます。式年遷宮の周期と同じ20年という記念すべき年を市民とお祝いするとともに、子どもたちの笑顔があふれ、幸せに年齢を重ねられる「笑子・幸齢化(しょうし・こうれいか)のまちづくり」を推進していきます。



【800mの石畳の通りが続く「おはらい町」から「宇治橋」を渡し、そして伊勢神宮へ】

自衛隊との関わり

本市では、市民の皆様の安全安心のため、防災関係機関との相互協力体制の確立や、防災意識の向上に取り組んでいます。本市には陸上自衛隊明野駐屯地があり、隊員の皆様には、ヘリコプターによる傷病者や物資の搬送など、市立伊勢総合病院の災害訓練にもご協力いただいています。また、毎年開催される航空祭は市民とふれあうイベントとなっており、地域との交流も盛んに行われています。



【明野駐屯地航空祭での装備品(AH-1S)展示を鑑賞する多くの来場者】

採用関連のご案内

東海防衛支局では、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験・高卒程度試験・社会人試験（係員級）合格者から防衛省職員を採用しています。令和8年度新規採用に関する各種採用イベントを計画しますので、防衛省に興味のある方は、是非ご参加ください。

各種採用イベントについては、ホームページ等でお知らせしますが参加には事前申込みが必要ですので、詳しくは東海防衛支局または防衛省のホームページをご確認ください。



大卒程度採用イベント予定

7月上旬～8月上旬：官庁訪問

8月中旬（国家公務員試験最終合格発表後）：採用面接

大卒程度・高卒程度採用イベント予定

9月 業務説明会（大卒程度、高卒程度）

東海防衛支局ホームページ「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/recruit/>

お問い合わせ先：東海防衛支局 総務課 052-952-8221



新着任者紹介



次長（総務、施設担当）

島元 和範

（令和7年4月1日付）

本年4月1日付けで東海防衛支局次長を拝命した島元です。

東海防衛支局が管轄する東海3県には自衛隊の活動を支える重要な防衛施設や防衛生産・技術基盤が所在しています。

これら施設を安定的に運用するためには、関係自治体をはじめ地域の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。

東海地域の勤務は初めてですが、地域の皆様との信頼関係の構築に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



総務課長 板垣 考宣

（令和7年4月1日付）

総務課長に着任しました板垣です。
初めての名古屋生活ですので、名古屋の様々な文化を楽しみたいと思います。
皆様どうぞ宜しくお願い致します。



会計課長 川瀬 嘉保

（令和7年4月1日付）

会計課長に着任しました川瀬です。
防衛力整備計画の3年度目となる令和7年度予算について、防衛力抜本的強化を踏まえ、関係法令を遵守し、予算の適正な執行に全力で取り組んでまいります。



施設企画課長 天木 悟

（令和7年4月1日付）

施設企画課長に着任しました天木です。

地域の皆様と良好な関係を構築し、防衛行政により一層のご理解が得られるよう業務に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



施設補償管理課長 加藤 賢二

（令和7年4月1日付）

施設補償管理課長に着任しました加藤です。

これまで築いてきた地域の皆様との信頼関係を大切に取組んでいきたいと思ひます。よろしくお願いします。



装備課長 塩野 章吉

（令和7年3月24日付）

装備課長として着任しました塩野です。

地方防衛局勤務そして東海地区での勤務は初めてです。所掌装備品の重要性をよく認識し、迅速適正な業務遂行に努めます。

【発行】東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館（電話）052-952-8212

2025年（令和7年）夏号（通巻第63号）<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

